



プラン2)

記入日	西暦 2020 年 1 月 10 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	UR 都市機構 (尾山台団地)
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	⑮
タイトル	学んで！体験して！楽しもう！！ 第 4 回「みんなの防災カフェ」“部屋をきれいにする” “災害時の備蓄について考える”
実践担当者のお名前	尾山台団地自治会・自主防災会 青田 敏彦

実践にかかった金額	5000 円未満
実践の準備にかかった時間	1 週間
実践活動を実施した日時	西暦 2019 年 9 月 7 日 10 時～12 時
実践の所要時間	2 時間
実践の運営側で動いた人の人数	5 人
防災教育の対象者の属性	地域住民・女性・高齢者・防災関係者
防災教育の対象者の人数	約 40 人
実践を行った都道府県と市区町村	埼玉県上尾市
実践を行った具体的な場所	尾山台団地集会所
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	準備したもの：模造紙、ペン等文房具、お茶・お菓子 避難用リュック（実践担当者私物）

達成目標	① 地震発生時、部屋の中で危険な場所がないか、自宅内の家具等配置を確認。自分の身を守るには何が必要か対策を考える。 ② 発災時、ライフラインが止まって困ること・不安を共有。どのような日ごろの備えが必要か、備蓄の重要性を考える。		
どの力を身につけよう としましたか？	知識・技能	全く	少し かなり 大いに
	思考力・判断力・表現力	全く	少し かなり 大いに
	学びに向かう力・人間性	全く	少し かなり 大いに



実践内容・方法	①前回(第3回)ワークショップおよび住民アンケート結果を元に、在宅時の地震発生時に無事対応し、その後の在宅避難を可能にするための安全な部屋づくりのため、自宅内の家具や電化製品などを付箋に書き出し、必要なもの、不要なものについてグループごとに話し合ってもらう。各自が付箋に書いた持ち物リストや片付けについての考え方を元に、気づきや改善点等を共有する。 ②在宅避難時に必要になるもの(水・食料その他)を付箋に記入し模造紙に貼る。同じような意見はグルーピング。課題に対する解決策も話し合い、グループごとに発表し共有する。 ③休憩では、お茶と非常用クッキーなどのお菓子を用意し、参加者同士のコミュニケーションを図る時間とした。 ④非常持ち出し袋のサンプルを提示し、作り方を皆で考えた。 ⑤アンケート(3問4択、自由意見)を実施し、参加者の学びや気づきを把握し、今後の活動の参考とする。
	
得られた成果	・ 防災という視点で普段の生活を見直すきっかけづくり ・ 災害時の備蓄の必要性および家庭に有るものを有効に活用することを意識づけ、非常用持出袋もあるもので出来る。



どのくらい身につきましたか？	知識・技能	全く 少し かなり <u>大いに</u>
	思考力・判断力・表現力	全く 少し かなり <u>大いに</u>
	学びに向かう力・人間性	全く 少し かなり <u>大いに</u>
課題・苦労・工夫	「部屋をきれいにする」という身近なテーマにしたことで、自分ごとと捉えていただき、多くの方々の参加をいただいたと考える。今後はこの活動をきっかけにモノのやり取りにつなげるなど、若い世代も取り込めるような仕掛けを行っていきたい。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について

1つの実践事例に複数の関係者がいる場合には関係者の数だけ表をコピーして記入してください

関係者の名前・団体名	
関係者の説明	
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ

1つの実践事例に複数の学びやメッセージがある場合には学びやメッセージの数だけ表をコピーして記入してください

伝えたい相手	集合住宅の自主防災会
伝えたい内容	・ 普段の生活に即した視点からの取り組みは、住民の参加を得やすい。 ・ 参加者の意見を他の参加者と共有することで、住民同士のコミュニケーション力「共助力」のアップにもつながる。